

コロナ禍における中国高齢者の生涯学習の展開

—上海の高齢者オンライン学習—

趙 天 歌

1. はじめに

本稿では、上海における高齢者のオンライン学習への取り組みを中心に、2020年コロナ禍以降の中国における高齢者生涯学習の展開を明らかにし、課題について検討することを目的とする。

2019年末、中国武漢で新型コロナウイルスが発見され、その後、ウイルス感染拡大が急速に進行し、中国全土および国際社会に多大な影響をもたらした。ウイルス感染拡大に対する諸防止対策特別措置（新冠病毒疫情防控政策）の実施によって、人々の生活様式や心情は大きな変化が見られている。中国は、国民の安全を守ることを最重要任務として感染拡大防止政策を徹底的に施行してきた。人々の生活に関わる労働経済および子どもたちの教育を保障するために、働き方の改革（テレワーク実施等）や各学校段階の対面授業から遠隔授業への切替えなど様々な対応措置を講じた。ところで、学校教育のように高度に組織化・制度化されていないノンフォーマル教育・学習機関としての社会教育・生涯学習（関連）施設等はコロナ禍の中で自ら活動を展開する余力が限られているため、十分な支援を得られぬまま、この世界に影響を及ぼしているパンデミックの前でどうしても後回しされる結果となった。一方、コロナ禍の収束がまだ遠い中で、外出が制限されることなどを機に仕事と学校教育以外、他者との関係性を構築し、孤独のない充実した日々を送るためには、生涯学習活動（社会教育、レクリエーション、余暇活動、地域イベント等）の必要性が改めて認識されるようになった。だが、前述のように、コロナ禍の影響で生涯学習の展開が難しくなった。インターネットやオンラインツールの活用を通して、新しい情報を得たり、興味関心のある内容を学習したり、友人等と容易にコミュニケーションを取ったりすることができる若年層ですら、外出制限期間中において孤独感を抱いているという問題が生じている。このように、人々の精神的ケアの重要性などに関する報道が多く出されている中で、そもそもコロナ禍の前でも特に大きな社会問題として捉われてきた高齢者の社会的孤立・孤独は、さらに深刻になっているのではなかろうか。

これまで（コロナ禍前）多くの高齢者は生活の質的向上を図り、精神的な面における充足感を獲得するために、様々な学習と社会参加活動に関わってきた。高齢者たちの要求は衣食住などの生活改善の面の欲求にとどまらず、すでに自己効用感の向上と自己実現を図るために多種多様な生涯学習活動（学習や社会参加・地域貢献）へと向かっている⁽¹⁾。しかし、コロナ禍の影響で従来ある対面参加型を中心とする高齢者の生涯学習活動の展開がさらに難しく、地域によっては全面中止の状態が長期に

続いたという状況もある。では、高齢者に対して遠隔・オンライン学習を実施したら、問題は解決するのではないか。ただし、加齢に伴う身体的・精神的能力の低下の問題のほか、一部の準高齢者（高齢準備期にある者）と機器操作等の知識や学習余裕のある前期高齢者を除き、多くの高齢者にとって遠隔・オンライン学習に必要な機械器具等の操作と活用が難しいことも考慮する必要がある。つまり、コロナ禍に関わらず、高齢者に向けた非対面型（遠隔・オンライン）の生涯学習の展開はもともと実施上において困難と限界が存在しているということである。それならば、コロナ禍の完全収束を待って活動を再開すれば良いのではないか。ここで特に注意して述べたいのは、中国の感染拡大防止政策の方針は「清零（感染者ゼロ化）」（2021年8月以降は「動態清零（発見しだいゼロ化）」）であり、国民一人ひとりの健康状況と移動経路を把握する情報連携システムへの登録が必須となる。つまり、外出制限の政策が緩和・解除されたとしても実際、高齢者の活動展開はまだ難しい。なぜなら、コロナ禍による外出制限や密集活動の禁止、感染拡大防止対策として公共交通機関の利用や各種施設への出入りに健康・移動記録コードの登録と提示が必要で、各種の資格・許可申請やオンライン操作への不慣れ等で高齢者の外出コストが高いからだと想定される。

このように、外出しなくても学習できる非対面型の高齢者のオンライン学習に注目が集まるようになった。実際、コロナ禍後、中国政府は、高齢者の生涯学習の革新的な展開を強調し、各種ノンフォーマル教育・学習機関において高齢者に向けたオンライン学習の推進に対して様々な政策的取り組みをしてきた。研究領域において、高齢者の生涯学習は今後、インターネット主導の遠隔教育学習システムが果たす役割が大きく期待されるという指摘もある。したがって、しばらく続くコロナ社会の要求課題に応じて、高齢者の生涯学習をさらに発展させていく上で、彼/彼女のオンライン学習の推進を速やかに対応する必要がある。また、上海は、高齢者の生涯学習支援に力を入れており、高齢者のオンライン学習の展開にも早い段階から積極的に取り組み始めている。よって、本研究では、上海の取り組み実践例を取り上げ、コロナ禍下で中国高齢者の生涯学習とりわけ高齢者のオンライン学習がどのように行われてきたか、その状況と課題を明白にすることを試みたい。

2. 先行研究調査

中国における各種教育政策および関連政策の中、今だ「生涯教育」と「生涯学習」の用語が混同して使用されている。「高齢者教育」と「高齢者生涯学習」の使用も同様である。その原因として考えられるのは「生涯学習（教育）」についての理解と解釈において、あらゆる教育分類・段階・形態の教育と学習活動を包括する「生涯学習」という考え方のほか、社会教育（継続教育）⁽²⁾や成人教育の展開を中心とする「生涯教育」を狭義的な生涯学習理念として捉えることが多いからである。これと同じように、「高齢者教育」と「高齢者生涯学習」は概念・内容・範囲上において殆ど違いが存在しないのである。本稿での表現を統一するために、以下では「高齢者の生涯学習」を使用する。

1980年代以降、中国各地において高齢者大学が設置されるようになり、高齢者の教養向上や定年退職後の生活を楽しく過ごすための教育・学習活動が展開され、高齢者の問題と高齢者の生涯学習に

関する研究が多く行われてきた。その中で、高齢者のオンライン学習についての研究状況はどのようなになっているであろう。中国の学術論文検索データベース「CNKI 中国知網」（以下、CNKI）から、「老年教育（高齢者教育・生涯学習）」と「線上（オンライン）」を検索した結果、2022年現在において、「期刊」に分類される学術誌レベルの論文は141件あり、そのほか「博碩論」の博士・修士課程の学位論文は28件（うち博士論文は2件）、「報紙（新聞）」は9件ある。「期刊」の発表論文数のこれまでの変動を見ると、2015年1件、2016年4件、2017年6件、2018年16件、2019年18件と徐々に上がっており、コロナ禍発生後の2020年と2021年にその数が34件と50件にまで倍増したのである⁽³⁾。これらの数字から見て、高齢者のオンライン学習に関わる研究は近年多く進められているとわかる。しかしながら、これらの研究は多くが2020年以降、コロナ禍後に集中的に現れたものである。この点から、中国における高齢者の非対面型（遠隔・オンライン）の生涯学習活動に関する先行研究を全体的に見て蓄積がまだ浅いと窺われる。

周⁽⁴⁾(2019)は、高齢者に対する教学形式（教授法）を充実させるために、高齢者大学等に依拠して、対面参加型の実施形態と合わせながら、オンライン授業および携帯端末を用いたマイクロレクチャーを展開する必要があると述べている。また、インターネット社会と人工知能の時代において、「中国における高齢者教育の宗旨はすべての高齢者を現代社会に適応できる『現代老人』にすること」であり、高齢者大学における高齢者の生涯学習には、現代情報技術とマルチメディア技術を導入すべく、「高齢者の生涯学習のデジタル化」を実現することを主張している。周⁽⁵⁾(2021)は、コロナ禍の影響により、高齢者の安全と健康を守るために、従来ある対面参加型の高齢者に向けた学習班や講座講義などの開催が難しく、対面参加という実施形態の変更をせざるを得なくなる状況にあり、今後コロナ禍が収束してポストコロナ時代において、放送大学の前身である開放大学とインターネット主導の遠隔教育学習システムが確実に大きな役割を果たすことが期待されると強調している。また、各種民間資源との連携協働を進め、高齢者の生涯学習（支援）の体系を強化させるとともに、それに関わる教職員等の専門性を高め、オンライン教育・学習内容をさらに充実させる必要があるなど、いくつかの未解決問題を提出している。

周（2019）と周（2021）のどちらにおいても高齢者の生涯学習をさらに発展させるためには、従来の対面参加型だけでなく、高齢者が今後ますます加速に進むインターネット社会、そして、ポストコロナ時代の状況に適応できるようにしていく上で、非対面型（特にオンライン）学習の実施推進に大きく力を入れる必要性について述べている。だが、取り組み実践例などへの検討が行われておらず、高齢者のオンライン学習を進めるためには、具体的にどのような課題があるかについて言及するには至っていない。また、中国におけるオンラインでの高齢者の生涯学習が、収束が当分遠いコロナ禍社会において、今後どのような整備改善が必要かについては十分に論じられていない。

3. 2020年以降の高齢者事業政策および本稿の位置づけ

2021年11月、中共中央・国務院による『關於加強新時代老齡工作的意見』⁽⁶⁾（以下、『意見』）が発表され、人口の高齢化に積極的に対応し、新時代における高齢者事業への取り組みを強化し、高齢者の充実感、幸福感、安心感を高めることを目標とする国家戦略の実行について、幾つか意見が出された。その中で、『意見』の第（十）条では、高齢者の社会参加の促進について、教育行政部門が中心となって高齢者の生涯学習の発展に向けた政策的取り組みを検討・策定し、必要条件を備えた教育機関（大学や専門学校など）における高齢者の生涯学習を促進する方策を採用するとともに、高齢者の生涯学習のさらなる発展を進めるために多様な社会的支援を組み合わせることで各種教育・学習資源の供給を拡大することが提出されている。第（十四）条では、高齢者が暮らしやすい環境づくりについて、高齢者の社会参加の安全性と利便性が向上するよう、各地域でバリアフリー環境の建設に関する規制、基準および規範を着実に実行すること、そして、新しい技術や手法の普及を促しつつ、高齢者に馴染みのある従来のサービス提供を維持するとともに、高齢者が一般的に利用するインターネットや携帯端末アプリケーション等の高齢化に対応した変革を加速させ、「智慧助老（高齢者のためのスマートヘルプ）」を推進し、デジタルスキルの教育と訓練の強化と高齢者の情報リテラシーの向上に取り組むことが強調されている。

2021年12月、国務院は『“十四五”国家老齡事業發展和養老服務体系企劃』⁽⁷⁾（以下、『企劃』）を制定し、2022年2月に正式発表をした。『企劃』の第（十八）条では、高齢者向け製品の科学的および技術的支援を強化することの重要性について述べられ、インターネットやビッグデータ、人工知能、第5世代モバイル通信（5G）などの情報技術やスマートハードウェアの高齢者向け製品分野への徹底的な応用を加速させることが提出されている。第（二十）条では、社区高齢者生涯学習の発展を加速させ、「養（養老）」と「教（教育と学習）」を組み合わせる革新的な実践を奨励すること、また、高齢者の生涯学習を促進するための資源と公共サービス提供を共有できる国家プラットフォームの構築や、全国各地での高齢者開放大学の設立、高齢者に向けた各種ノンフォーマル教育・学習機関でオンライン学習の実施推進など、新時代における高齢者の生涯学習の革新的な展開に注力することを強調されている。

これらの政策から、中国では、コロナ禍後、高齢者の生活の質的向上および社会的孤立の防止を図るために、高齢者の社会参加への支援が必要不可欠であるのは言うまでもなく、それに加え、インターネット社会が進む中で高齢者のための情報バリアフリーアクセシビリティの向上を実現するために、オンラインでの高齢者生涯学習の促進に関わるさまざまな政策的取り組みが行われているとわかる。つまり、インターネットを利用したオンライン学習は、今後、中国における高齢者の生涯学習の発展において重要な役割を果たすこととなるだろう。

だが、実際のところ、高齢者の生涯学習におけるオンライン学習の取り組み実践がまだ少ないのである。たとえ高齢者大学などにおいてオンライン授業や講座などが設置されているとしても、教職員

等の情報技術の専門性が比較的低いことで高齢者向けのオンライン学習活動の内容が限られていたり、オンライン学習プログラムの編成への重視が不十分なため計画的・系統的な学習内容の配信が持続できなかつたりするなどの問題がある。国の政策方針は、今後の発展の大まかな方向性と普遍的に存在する課題を指し示すものであり、具体的な実施推進に関しては、各地の高齢者大学や開放大学など的高齢者向けのノンフォーマル教育学習機関が自ら地域の状況に応じて適切な方策を模索しなければならない。特にコロナ禍の状況下で、多くの地域ではオフラインでの対面参加型の高齢者生涯学習活動の展開が中止となり、学習活動を組織・開催・運営する教職員自体が減りつつあるという状況が見られる。オンライン学習を実施するどころか、これまで漸く築き上げてきた成果の存続も難しくなっているという現実の問題がある。

本稿では、2020年以降、中国上海における高齢者のオンライン学習の取り組み実践を取り上げ、コロナ禍が中国全土を席卷している間、上海における高齢者の生涯学習の展開はどのように従来の対面型中心学習から速やかにオンライン型学習に切り替えることができたか、その状況を把握することで、実践の成果と今後の課題について考察していきたい。また、上海における高齢者のオンライン学習の先進的な事例を検討することは、今後、ポストコロナ時代の到来に向かって、中国の他の地域における高齢者生涯学習の発展の参考になりうると考えられる。

4. コロナ禍における上海の高齢者生涯学習への取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止対策が実行されて、学校教育を全面的に遠隔（オンライン）で実施するという国の指導政策が出された。上海は、その指導方針に従い、対面での学校教育をオンライン遠隔教育に切り替え、すべての学校段階で遠隔教育が確実に実施されるようにするために迅速に対応していた。それと同時に、オンラインでの学校教育の実施だけではなく、隔離政策などによって外出が難しくなったすべての人々が充実した生活を送れるよう、上海は、積極的にオンラインでの開放教育（オープン・エデュケーション）の展開の促進に取り組み始めた。

4.1 高齢者向け学習プラットフォームの構築

2020年6月、UNESCO IITE（全称：The UNESCO Institute for Information Technologies in Education）と上海開放大学、華東師範大学による共同編集で『上海在線開放教育：COVID-19 疫情期間的応急措施与創新実践（上海オンライン開放教育：COVID-19 感染拡大期間における応急措置および革新的な実践）』⁽⁸⁾（以下、『報告』）という報告書が公開された。『報告』では、コロナ禍期間で「停课不停学（授業は停止するが、学習は停止しない）」という指導方針に従って、就学前教育から高等教育まで、そして職業教育や技術訓練および高齢者とその他の市民たちのノンフォーマル学習などを幅広く包括する各教育分類において行われてきたオンライン教育・学習の実施推進への革新的な取り組み実践が記録されている。ところで、コロナ禍で上海におけるオンライン開放教育の促進のために行われた多様な取り組みと成果が報告されている中で、隔離期間中の高齢者たちの身体的・精神的ケ

アの問題への注目と関心が高く、高齢者の生涯学習をどのように実施推進していくかについて各種の対応策が講じられ、それに関わる多様な実践の試みが行われてきた。

上海は、中国における高齢化率の最も高い都市として、急増する高齢者人口に質の良い学習資源を供給することは、行政と社会にとって重要な課題となっている。2020年現在、上海における各類別の高齢者大学（学校）の学習活動に関わる60歳以上の高齢学習者の総数は500,000人を超過している。また、高齢者の生涯学習は基礎的行政組織の社区（地域コミュニティー）に浸透しつつあり、全市では約600,000人の高齢者が各種の学習と社会参加活動に参加している。上海の高齢者は「老人未老（高齢だが老いていない）」と言われており、彼/女らは今の社会に関する知識の習得や他者との関係性の構築などを通して、高齢期における精神的な面での充実感を獲得するための学習要求を持っている。そうした高齢者たちはコロナ禍の影響で外出や対面学習、社会参加活動が大きく制限される中でどのように精神的充実感を得続けられるだろうか。即ち、「どのようにしたら最大限に高齢学習者の身体的・精神的健康を守るか」、「どのようにしたら高齢者たちにもオンライン学習ができ、外出しなくてもオンラインで豊かな学習内容を楽しめられるか」はコロナ禍現在、そしてポストコロナ時代における上海の高齢者生涯学習の発展が避けて通れない大きな課題である。

上海では、すでにコロナ禍前から、市民のオンライン学習、モバイル通信学習、遠隔学習、つまり高齢者を含むすべての人々のオンライン生涯学習を展開するために、「上海学習網（上海学習ウェブサイト）」（以下、「上海学習網」）が立ち上げられており、市レベルで高齢者に向けた「上海老年人学習網（上海高齢者学習ウェブサイト）」（以下、「上海老年人学習網」）も開設されていた。コロナ禍後、生活様式の変化により、これまでオンラインの形に不慣れが多かった高齢者が、インターネット社会に適應できるよう少しずつでも慣れていくしかないという状況に置かれている。高齢者の要求を満足させるためには市レベルの「上海老年人学習網」をさらに改善・拡充し、区レベル（計16区）でそれぞれの高齢者向けの生涯学習ウェブサイトとモバイル通信学習ネットワークを作り上げるなど、高齢者向けの学習プラットフォームの構築に大きく力を入れた。

4.2 高齢者のオンライン学習

コロナ禍になって2022年現在まで2年が経過している。『報告』の中で特に述べられた「上海学習網」と「上海老年人学習網」では、高齢者にどのような形と学習内容を提供しているだろうか。

(1) 「上海学習網」

全市民に向けて開設された「上海学習網」では、「生涯教育」「基礎教育（就学前教育から後期中等教育まで）」「職業教育」「高等教育」の4大分類によるカリキュラム編成がある。その中で、高齢者の生涯学習との関連性が高い学習内容を提供するのは「生涯教育」のカテゴリーであると容易に推定される。下表1は、「生涯教育」のカテゴリーにおけるコースとその下位に分かれる各小分類の学習内容である。「★」は高齢者の興味関心と利用率が比較的高いと想定される学習内容である。

これまでの先行研究で指摘されている高齢者の学習ニーズや彼/女らの高齢期生活に対する興味関

表1 「生涯教育」における各コース・小分類の学習内容

	コース	小分類（学習内容の一部補足）
生涯教育	道德教育★	社会貢献，職業道德，宗教（仏教の知恵），礼儀，人物伝，論語
	科学素養	自然と動物，ジェンダーと性教育
	文化涵養★	人物伝，歴史，哲学，文芸創作（シェークスピア・『紅樓夢』・毛沢東詩詞），文化（イスラム文化・芸術と美学）
	公民意識★	中国国都（国旗・国歌・国徽），党員教育，政治，経済
	生活保健★	女性の産後回復，高齢者の健康診断結果の解説，高齢者の心理的保健，中医養生，運動（ヨガ）
	家庭安全★	詐欺被害の防止
	家庭教育	親子関係，幼児教育
	休閒技芸★	高齢者料理教室（上海料理），撮影，切り紙，野外生存経験
	家庭理財	投資理財
	法律維権	法律常識，法教育（青少年犯罪），遺産相続
	生活環境★	食品安全と生産，婚姻，環境教育（PM 2.5）
	言語文字★	ビジネス英語，高齢者日常英会話，上海語，創作技術（作文）
	情報技術	画像処理，オフィスソフトの使い方
	就業指導	起業関連知識，就職指導，自己分析，キャリア計画
	職業発展	職場生活，キャリア形成，企業管理
	雲視課堂★（ビジュアル・クラウド学習）	絵画（水墨画・カラースケッチ），実用技能（スマートフォンの使用・オンライン買い物・撮影・録画），曲劇（京劇・崑曲），読書（朗読・絵本読み聞かせ），手工芸（花のペーパーアート）
	社区微課★（短時間動画授業）	舞踊，美食紹介，影絵芝居，民俗文化，市民教育，手工芸，健康教育，実用技能，投資理財，情報技術
オーディオ課程	オーディオブック（国内外文学の名著）	

〔「上海学習網」⁽⁹⁾に基づいて筆者作成〕

心の高い生涯学習内容（健康の維持増進，趣味的・文化的レクリエーション，社会参加貢献）を踏まえると，表1のように，全市民に向けたものとはいえ，「生涯教育」というカテゴリーに注目すると，実際，高齢者の興味関心と利用率が相対的に高いと想定される学習内容は，全体の5割以上を超えており，比較的多いということがわかる。また，各コースの小分類における教材の配信方法と学習内容を視聴・確認したところ，8割以上のコースでは，既存動画・ビデオ（教育系テレビ番組で過去放送された録画のカットなど）の配信という形を取っており，オリジナル教材を作成して配信したものは殆どないという状況がある。しかし，ここで，特に注意して述べたいのは，「雲視課堂（ビジュアル・クラウド学習，全称：Visual-cloud classroom of Life-long Learning）」と「社区微課（オンライン・コミュニティで配信される短時間動画授業）」の2つのコースである。これらのコースにおける学習の展開は，高齢学習者の興味関心を引きやすい内容が多い上，オンライン学習の実施形態も他のコー

スに比べてさらに豊かである。他のコースのように単なる既存動画・ビデオの配信で終わるのではなく、過去に行われた対面授業（授業中での学習者と講師の相互交流が記録された）動画を配信したり、オリジナル資料を用いたオンデマンド型授業を公開したり、一部の学習プログラムでは双方向コミュニケーションの取れるリアルタイム授業を実施したりしていることが見られる。また、「微课」という短時間動画（5～10分程度）配信の形は、分割された時間を合理的に利用する「碎片化学習」の方式を採っており、多忙化社会に追われている青中年層のみならず、加齢によって精神的能力が低下しつつある高齢者たちにとっても、学習の集中力と効果を保障できる彼/彼女の特性に適したオンライン学習の形態であるといえる。

(2) 「上海老年人学習網」

高齢者を対象とする「上海老年人学習網」およびその下位に設置されている各種の高齢者学習サイト（モバイル通信学習を含む）を調査したところ、高齢者向けのオンライン学習の内容や実施形態は、上述した「上海学習網」における「生涯教育」のカテゴリーとで大きく重複しているところがある。しかし、「上海老年人学習網」では、その他の学習サイトで見られない『銀齡課堂』という高齢者向けのオンライン学習プログラムがある。『銀齡課堂』は、高齢者の精神的要求を満足させることを目標としており、上海教育テレビと「上海老年人学習網」によって共同で配信されている。コロナ禍の前にすでに開設されているが、コロナ禍によって、高齢者が家にいる時間がさらに長くなり、『銀齡課堂』の内容編成等もその状況に応じて、各種新しい学習内容を拡充し、高齢者の身体的・精神的健康の維持増進に関連する学習内容の企画と配信に取り組んでいたことが見られる。以下、高齢者のオンライン学習をイメージできるようにするために『銀齡課堂 2021』の高齢者オンライン学習プログラムを提示する。

表2に示されるように、筆者は『銀齡課堂 2021』における各講のオンライン課程を試聴し、学習のテーマと内容を整理しまとめ、講師の状況と試聴回数を含め、『銀齡課堂 2021』の学習プログラムを作成した。学習のテーマと内容から見て、高齢期における健康の維持・増進のための内容が圧倒的であるとわかる。その中で、高齢者の転倒防止のための科学的な知見に基づくトレーニング知識・方法や慢性病の改善、四季の変化に合わせる養生など高齢者の身体的健康に関する学習内容以外に、中国の古典医学書の『黄帝内経』の解説を通して、「淡泊」「寧静」「心態決定健康的狀態（心理狀態は健康狀態を決定する）」など的高齢者の精神的・心理的健康の保持に関わる学習内容も見られた。また、上海市疾病予防控制中心の医師や上海中醫藥大学の教授の専門家が講師をしており、学習内容の設計と解説は高い専門性・信頼性が保たされているとわかる。そして、オンライン配信の形式では、高齢者は好きな時に学び、何度でも学ぶことができる。その上、学習の途中でビデオを一時停止したり、再生したりすることもできるため、学習は時間や場所に抑制されず高い自由度と利便性がある。一方、「2021・上」と「下」の各講の試聴回数の変動は、全体的に下がり続けたことが窺える。このようになった原因として、①ウェブサイトからの視聴に比べ、上海教育テレビによる放送を視聴の方が高齢者にとって比較的容易であり、②「2021・下」の文化紹介等の内容に比べ、「上」にお

表2 『銀齡課堂 2021』の高齢者オンライン学習プログラム（筆者の試聴を除く）

講	2021・上	学習テーマ（学習内容） 毎回 25 分間	講師	試聴数
1	走好健康路 （健康な道 を歩む）	老年人跌倒那些事（高齢者の転倒について知る）	徐乃婷（医師）	298 回
2		内外兼修予防跌倒（身体機能と環境から転倒を防ぐ）	喻彦（医師）	92 回
3		筑安全港湾防止跌倒跌傷（転倒を引き起こす疾患、常備薬の正しい服用方法を知り、転倒を防止する）	徐乃婷（医師）	87 回
4		健歩走看世界（高齢者の外出時の転倒防止に留意すべき点を知る）	周徳定（医師）	79 回
5		科学鍛錬予防跌倒（科学的な知見に基づくトレーニングを通して転倒を予防する）	喻彦（医師）	54 回
6		不要惧怕“人生最後一次骨折”（股関節の保護を学ぶ）	高寧（医師）	60 回
7	『黄帝内経』 的養生知恵 （『黄 帝 内 経』におけ る養生の知 恵）	走進經典（古典医学書の『黄帝内経』を知る）	王慶其（教授）	73 回
8		天人合一順応自然（養生理念の「天人合一（天人相関説）」と養生方法の「順応自然（自然に身を委ねること）」を学ぶ）	同上	62 回
9		恬淡虚无精神内守（「淡泊・寧静」の精神的な面での養生を学ぶ）	同上	39 回
10		飲食養生（健康な飲食の習慣を学ぶ）	同上	52 回
11		心態決定健康的狀態（心理状態とは何か、健康との関係を知る）	同上	26 回
12		調整心態必先調控人生的欲望（節欲することを学ぶ）	同上	22 回
13		*第12回と同じ学習内容が配信されている	*同上	27 回
講	2021・下	学習テーマ（学習内容） 毎回 25 分間	講師	試聴数
1	杏 林 問 葉 （養生の薬 食材）	春季篇（陽の気を守り「春困」を解消する春の養生の薬食材）	楊柏燦（教授）	62 回
2		夏季篇（暑気あたりしないよう湿気を除く夏の養生の薬食材）	同上	30 回
3		秋季篇（乾燥による病気や不調の燥邪を癒す秋の養生の薬食材）	同上	26 回
4		冬季篇（栄養を補給し血流を良くする冬の養生の薬食材）	同上	30 回
5	慢病管理及 中医康復 （漢方によ る慢性病の 改善）	高血圧（高血圧の危険性、判断、症状と予防を理解し、健康な生活習慣を身につける）	余子萍（教授）	28 回
6		糖尿病（糖尿病の危険性、発病の原因と特徴、漢方による病気症状の改善を知る）	同上	5 回
7		慢阻肺（慢性閉塞性肺疾患の特徴、症状、危険性を知り、慢阻肺の予防と健康な生活習慣を注意する）	同上	4 回
8		癌（癌の発病・発見率を知り、癌を慢性病として予防・管理等することを理解する）	同上	16 回
9	漫談中医文化	中医文化（中医学・漢方の核心である思想文化、中医の「道」を知り、中華文明・文化としての重要な価値を理解する）	張葦航（副教授）	17 回

〔「上海老年人学習網」『銀齡課堂 2021』⁽¹⁰⁾に基づいて筆者作成〕

ける「走好健康路（健康な道を歩む）」のような相対的に高い日常性と応用性をもつ学習内容はより高齢者の興味関心を引きやすいからだと考えられる。

5. 考察—まとめにかえて

前述したように、中国における高齢者の生涯学習は非対面型（遠隔・オンライン）での実施が困難で限界がある。しかしながら、これまで（コロナ禍前）遠隔実施で非対面型の高齢者生涯学習が全く行われていなかったというわけではない。放送大学によるラジオ・テレビ講座が多様に実施されることで、活動能力が限られ外出または遠距離移動の困難な高齢者たちに学習の機会を提供している。また、高齢者の興味関心に合わせて、雑誌や新聞などの高齢者向けの教育・学習系刊物も多く出されている。例えば、『現代養生』、『中国老年人膳食指南』、『快樂老人報』などがある。一方で、1990年代半ば以降、情報化社会が急速に進展しつつあることによって、さらに高い自由度・効率性・包括性・相互性のある多元的社会が到来した。特にインターネットの普及により、人と他者とのコミュニケーションや関係性の構築のみならず、教育と学習形態にも大きな変化と影響を及ぼした。遠隔教育・学習の実施形態はさらに多様化していき、従来あるラジオ・テレビや新聞・雑誌等の紙媒体による一方通行の情報伝達という形式を超え、インターネットを通じて電子化された教育・学習内容の配信（オンデマンド）や双方向コミュニケーションの取れるライブ配信（リアルタイム）などのオンライン教育・学習形態が現れてきた。ところが、このようなオンライン型の教育・学習形態は、コロナ禍の前、成人教育や職業教育等の活動展開において用いられることが多いが、高齢者の生涯学習においては殆ど見られていない。すなわち、インターネット社会が進む中、学習機会等へのアクセスがより便利になるオンライン型の実施形態が現れたとしても、少なくともコロナ禍になるまでの中国における高齢者の生涯学習は、対面参加型の実施形態を中心としており、インターネットを介さない遠隔学習を補足としていたという実情がある。

だが、新型コロナウイルスの発生によって、人々の仕事・教育・学習・余暇活動などほぼ生活全般が一気に対面参加型から非対面型（遠隔・オンライン）に切り替えを余儀なくされた。そんな中、外出制限等が解除されたとしても、安全の面や外出のコストなどを考えると、高齢者が家にいる時間が過去よりもさらに長くなり、非対面型とりわけインターネットを介してより多様な学習内容を提供できるオンラインでの高齢者生涯学習の展開に大きな期待が寄せられるようになった。

上海における高齢者のオンライン学習の取り組みを見ると、高齢者向け学習プラットフォームを構築し、各種各行政レベルの高齢者学習サイト（モバイル通信方式を含む）を通じて、様々なオンライン学習プログラムを企画・更新したり、高齢者の加齢に伴う体力低下等の特性を考慮した短時間の「碎片化学習」動画を配信したりしている。よって、コロナ禍という難しい状況下にもかかわらず、上海では、高評価に値するオンライン実施の高齢者生涯学習が展開されていたとわかる。また、近年では、高齢者向けの学習情報・内容を提供しているモバイル通信学習が大きな注目を集めている。上海高齢者大学は「微信（WeChat）」という中国全国で広く使われている SNS を媒介として「指尖上の老年教育（指先上の高齢者生涯学習）」⁽¹¹⁾の公式アカウントを作り、コロナ禍期間において多様な高齢者向けの学習文章、情報、動画などを配信している。多くの高齢者にとって、モバイル通信学習

の方式はPC等より操作が簡単である。そして、スマートフォンを学習媒体にすることで、ある意味で「人人学習，处处能学，時時可学（誰でも・何処でも・何時でも学習）」できるオンライン高齢者生涯学習の初期の形ができたと窺えよう。

このような上海の高齢者のオンライン学習への取り組み実践は言うまでもなく、中国における高齢者生涯学習の先進的な事例である。しかし、まだ改善の余地がある。例えば、オリジナル学習資料の作成や双方向コミュニケーションの取れるオンライン授業が比較的少なく、従来ある対面参加型の学習・交流活動のように、高齢者たちの人間関係の構築を確保することができないなどといった問題が未解決のまま残っている。

教育系番組や過去の授業記録ですでに公開されていた既存の動画・ビデオを編集して配信することがメインで、オリジナル学習資料の作成がほほないという状況に関しては、情報技術を活用できる専門性のある教職員が不足していることが原因として考えられる。一部の双方向コミュニケーションの取れるライブ授業が行われているといっても、実際、講師が一方向的に話を進めている場合がほとんどであるという現状がある。また、「上海学習網」と「上海老年人学習網」における高齢者向け（高齢者の興味関心が高いと想定される）オンライン授業のアクセス数は大きな差があるため、『報告』の結果にとどまらず、高齢者の学習と試聴状況を正確に把握するためには、今後さらに実態調査を進めていく必要がある。そして、高齢者たちの学習意欲が低下しないよう、過去の既存学習内容をいつでも再学習できるようにするだけでなく、高齢者の特性を考慮しつつ、彼/彼女の興味関心を引き出し、要求を満足させることのできる多種多様な学習内容と機会を提供していくことが重要である。そうするためには、今後ポストコロナ時代と高齢者の要求変化に応じて、オンラインでの生涯学習の内容の更新やオリジナル教材・学習資料の開発などへの取り組みをいっそう強化しなければならない。

注(1) 謝保群『中日両国における高齢者生涯学習支援体制の現状と課題』風間書房 2007年3月

- (2) 継続教育とは、学校教育終了後や学歴取得後の延長線に立つものだけでなく、あらゆる発達段階において教育・学習し続けることを意味する。学歴や職歴に関わらず、生涯に渡って学び続け、自由意志によって教育を受け続けることが継続教育の中核である。継続教育の考え方は社会教育とほぼ重複しているため、現行中の各種政策文書の中で両方の用語を同様な意味で使われることが多い。
- (3) CNKI 中国知網ホームページ（「老年教育（高齢者教育・生涯学習）」と「線上（オンライン）」）。<https://kns.cnki.net/kns8/defaultresult/index>（2022/5/11）
- (4) 周珍「基於老年人學習需求的教學管理策略探求—以嵯州市老年教育為例」山西廣播電視大學學報 2019（02） pp. 95-100
- (5) 周湖健「後疫情時代老年開放大學弁學模式的探索」淮南職業技術學院學報 2021（05） pp. 113-115
- (6) 中華人民共和國人民政府ホームページ。中共中央・國務院『關於加強新時代老齡工作的意見』2021年，http://www.gov.cn/zhengce/2021-11/24/content_5653181.htm（2022/3/22）
- (7) 中華人民共和國人民政府ホームページ。國務院『“十四五”國家老齡事業發展和養老服務體系企劃』2021年，http://www.gov.cn/zhengce/content/2022-02/21/content_5674844.htm（2022/3/22）
- (8) UNESCO IITE・上海開放大學・華東師範大學『上海在線開放教育：COVID-19 疫情期間的應急措施與創新實踐』UNESCO IITE 出版 2020年6月 pp. 44-50

- (9) 上海学習網ホームページ。 <https://www.shlll.net/main/index.html> (2022/3/29)
- (10) 上海老年人学習網ホームページ（『銀齡課堂 2021』）。 <http://e60.shlll.net/Course/CourseDetail?CourseIdstr=11145927656F531A>, <http://e60.shlll.net/Course/CourseDetail?CourseIdstr=DACB418A69DDC5A4> (2022/5/12)
- (11) 上海老年大学・上海老年教育 WeChat 公式サイト。 https://mp.weixin.qq.com/mp/profile_ext?action=home&__biz=MzU5MDg1NTkwNQ==&scene=124#wechat_redirect (2022/3/30)